

令和8年度 学校推薦型選抜 情報科学部 情報科学科 小論文
出題の意図と解答の傾向

第1問

【出題の意図】

小林雅一著の書籍『AIと共に働く ChatGPT、生成AIは私たちの仕事をどう変えるか』の第4章「未来予測—私たちの生きる世界は今どこに向かっているのか」の第3節「スキルが要らなくなる時代は人間にとって幸せなのか？」を資料として出典した。また、株式会社MM総研が2024年に公表した「生成AIの利用用途」およびデータ収集と可視化を専門とするStatistaの公表データを元に総務省が作成した「世界の生成AI市場規模の推移及び予測」を関連するグラフとして出典した。

それらから、生成AIの発展という社会的テーマを通じて、情報を整理・統合し、自らの考えを論理的かつ根拠を持って表現でき、かつAI技術と人間の間を批判的・創造的に捉え「人間としてどう生きるか」を主体的に考えられるかを問うている。

設問1はアドミッションポリシー1、2の観点から生成AIという社会的テーマを読み解き、資料内容を正確に把握する基礎的読解力・理解力および、AI活用の現状を自らの言葉で説明する力を問う問題である。

設問2は、アドミッションポリシー2、3、4の観点からAI技術の進展を背景に、人間の在り方や課題を主体的に考え、自分の言葉で意見を述べる力およびAIと人間の共存や協働に関する論述を通して「どのように人間に関わるべきか」という未来志向の姿勢や、グローバルなAI市場を題材に、技術変化を地域社会や人間生活の視点で考える力について問う問題である。

【解答の傾向】

設問1

資料を組み合わせ、利用実態や利用用途などの特徴や傾向を導き出すことがあまりできていなかった。

説明を求める設問だったが説明文になっていない解答が散見された。

資料内容そのものをただ説明しているだけの解答が散見された。

プロンプト・エンジニアリングに触れていない解答が一定数見られた。

設問2

自身の意見としてきちんと書かれている解答が多く、文章を書く勉強をしていることがわかった。

筆者の懸念について触れている解答がほとんど見られなかった。

受験生にとっても生成 AI が身近な存在となっていることが想定されるように幅広い視点からの解答が出ていた。

自分の意見は書けているものの、資料 1 の内容を踏まえていないものが散見された。

第 2 問

【出題の意図】

DX（デジタルトランスフォーメーション）の国内企業動向を示す報告書である「DX 動向 2025」（独立行政法人 情報処理推進機構）およびデジタル人材育成の国内企業の状況を示す報告書である「Society 5.0 時代のデジタル人材育成に関する検討会 報告書」（経済産業省）の文章および図表を出典した。これらの資料に基づき、今日の DX やデジタル人材育成の状況や課題を理解して、資料とデータを読み取って考察し、説明する力を問う内容とした。

設問 1 は、DX の国内企業の状況を他国との比較に基づいて認識し、その特徴となる違いについて、資料文章中の訴求されている箇所から抜き出して、エビデンスとなる定量的な資料データと照らし合わせながら説明できることを問う問題である。

設問 2 は、デジタル人材育成に関する国内企業の状況と課題を認識し、その解決として考えられる施策を、他国との比較と共に提示されている内容を参考にして、自身の考えをまとめる力、および根拠を持って説明する力を問う内容とした。

【解答の傾向】

設問 1

資料のデータ内容に基づいて特徴的な違いを説明する問であったが、具体的な定量値に基づく特徴として説明できていない解答が多かった。

DX の取り組み結果と取り組み状況について、他国との差に触れて書かれた解答が少なく、また他国との比較をしているものの、その具体的な差に言及している解答はあまり見られなかった。

設問 2

結論から記述する論理展開が多く、小論文問題の対策をしっかりと行なっていることがわかった。

提示された資料内容に基づき、講じるべき施策に対する自身の考えを問う問であったが、施策の明確な定義がない解答や具体性が低い解答が一定数見られた。

自身の考えに対する参考とする資料内容の説明に多くの行数をさき、自身の考えがほとんど説明されていない解答が一定数みられた。